

# 平成26年度 学校評価実施報告書

学校名( 京都市立養徳小学校 )

## 1 平成26年度 重点評価項目

○ おもいや考えを表現する力の育成      ○ 規範意識の育成      ○ 基本的生活習慣の確立

## 2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
						評価日	平成26年9月30日	評価日	平成26年10月24日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	おもいや考えを表現する力 読書活動の充実 家庭学習の習慣化	掲示板での言葉の広場 や各教科での言語活動 のさらなる充実 朝読書の充実 読み聞かせボランティア 読書100冊の定着 学校便り等による啓発	話す・聞く話型の統一。 ジョイントプログラム等の 結果 ・朝読書や読み聞かせ を通して読書の楽しさを 味わっている。 ・時間を決めて勉強を している。	全市平均より2～3ポ イント上回った。 「できている」児童・保護 者の割合は85% (前年 比+2ポイント) 「そう思う」児童・保護 者の割合は65% (前年 比+11ポイント)	⇒	教職員の指導の工夫が 評価となって表れ、85%の 保護者・児童が「授業がわ かる・楽しい」と回答があ った。 毎朝の読書活動で本に 親しみ、児童間で読み聞か せ活動もできた。	⇒	基礎基本の定着を図るた めの授業改善をさらに目指 すと共に家庭学習の大切さ を子どもたちと話し合ったり、 情報を発信したりしていく。 考えや思いを表現できる子 の育成に向け、日常の中 でも聞く話す力を育てていく。
2	豊かな心	人権教育の充実 規範意識の育成 豊かな心の育成	「ともだちの日」の取組 学校のきまりの確認・徹 底 ソーシャルスキルレー ニングの活用	「ともだちの日」の振り返り。 ・仲間を大切にす る気持ちが育 っている。 ・学校や学級のきま りを守っている。 ・友達や家族が悲 しくなるよう なひどい言葉遣 いをしないよう に気をつけてい る。	「そう思う」児童・保護 者の割合は91% (前 年比+2ポイント) 「できている」児童・保護 者の割合は81% (前 年比+9ポイント) 「そう思う」児童・保護 者の割合は85% (前 年比+7ポイント)	⇒	「約束・きまり・ル ール」の項目で、児童 のきまりを守っている という意識と保護 者・教職員の認識に ズレがある。 ソーシャルスキル トレーニングを 継続的にやってきた 結果、情操を育む ことにつながった。	⇒	家庭・地域・学校が 同じ目線で子ども たちに指導を 続け規範意識の 向上にさらなる 努力を行う。 自尊心を高 め自己肯定感 を持たせること により、自他を 大切にする子 の育成に努める。
3	健やかな体	基本的生活習慣 の確立 体力向上	早寝・早起き・朝 ごはんの呼び かけ生活点検 表 全校マラソンの 取組部活動の 推奨	・早寝・早起き をしている。 ・朝ごはんを 毎朝食べてい る。 ・業間マラソ ンの実施。 ・児童の外遊 び・部活動を 推進すること。	「そう思う」児童の 割合は98% (前 年比+5ポイント) 「できている」教 職員の割合は78% (前年比+20ポ イント)	⇒	朝食の大事さが 定着してきたが、 まだ数人朝ごはん を食わずに登校 してきている 児童がいる。 基本的生活習慣 の定着が図れて きた。	⇒	引続き朝食の大切 さを学校便り等 で家庭に呼びか けていく。 運動委員会によ るドッジボール 大会や大縄大会 なども体力向上 を目指している。
4	独自の取組	安全教育・安全 管理 小中一貫教育の 推進 情報発信の充実	セーフスクール指 定校 3校合同研修会 の実施 ホームページの 更新	・計画的な安全 教育を行い、 児童自ら考え 判断して安全 に行動できる 力を育てる。 (教職員) ・小中一貫教 育を推進す る。(教職員) ・学校ホーム ページが充 実する。(教 職員)	「できている」教 職員の割合は83% (前年比+20ポ イント) 「できている」教 職員の割合は50% (前年比+38ポ イント) 「できている」教 職員の割合は75% (前年比+26ポ イント)	⇒	文科省のセーフ スクールの指定 を受けて2年目、 緊急地震速報装 置を使っての 避難訓練を年8 回実施し、安全 を意識する児童 が増えた。 小中連携として 中学校からの 出前授業、ふれ あいコンサート など実施して きた。	⇒	教職員の実地安全 研修も年3回 行い、研修の 成果を安全教育 に反映させてい る。 ホームページは 学年からの 発信を増やす 方向で更新頻 度を上げる。
								⇒	・自宅地震を感じ た時にテーブル の下に隠れて「ガ スを消して」と、 身の安全を守 れる子になった。 ・ホームページ でも安全研修を アップされてい て、子どもを 安心して送り出 せる。 ・階段掲示とか の工夫がある がたい。